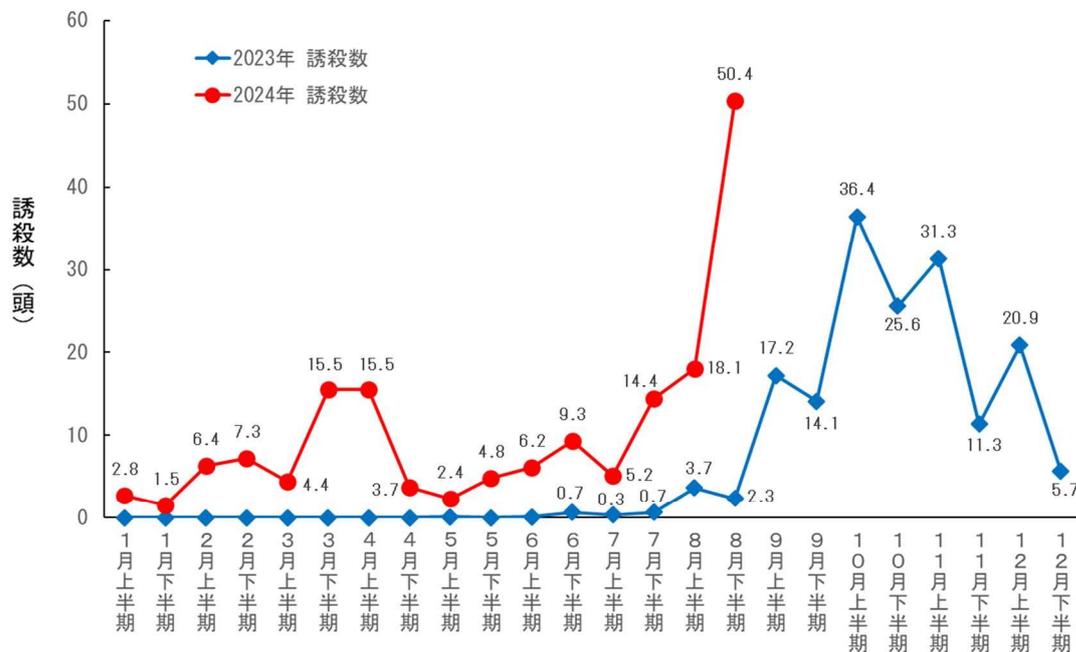


令和6年度 病害虫発生予察 注意報 第8号

令和6年9月6日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 トマトキバガ
- 2 対象作物 トマト、ミニトマト
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 前年よりやや多い
- 5 発生量 前年より多い（フェロモントラップ調査結果に基づく）
- 6 発表の根拠

- (1) トマト及びミニトマト圃場において、本虫による葉及び果実への加害が確認されている。
- (2) 8月14日～8月28日に県内18地点で実施したフェロモントラップによる1地点あたり雄成虫誘殺数は50.4頭で、前年の2.3頭（9地点の平均）よりかなり多く、10月上半期に記録した最高誘殺数36.4頭より多い。



トマトキバガのフェロモントラップによる1地点あたり誘殺数（2023～2024年）

- (3) 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、福岡管区气象台が9月5日に発表した1か月予報では、平均気温は、高い確率 80%、降水量は、少ない確率 30%、平年並 30%と予想されており、引き続き好適条件が続く可能性が高い。

7 防除対策

- (1) トマトとミニトマトにおいて、トマトキバガに対する登録農薬は別添表1のとおりである。薬剤防除にあたっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、IRACコードが異なる薬剤のローテーション散布を行う。
- (2) 一斉防除の効果が高いので、産地の防除暦等を活用して地域ぐるみで防除を行う。
- (3) 圃場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
- (4) 被害葉や被害果は圃場内から持ち出すとともに、野外に放置せずに速やかに適切に処分する。
- (5) 国内で発生が確認された作物はトマト及びミニトマトのみであるが、海外では、ナス、タバコ、バレイショ、ホオズキ等のナス科作物やマメ科のインゲンマメも寄主植物として確認されている。トマト及びミニトマト以外の農作物に本虫が発生した場合には登録農薬がないので、管轄の県振興局生産流通部に相談する。

8 その他

トマトキバガ幼虫による被害葉は、ハモグリバエ幼虫による被害葉に似ているので、別添の「トマト葉におけるトマトキバガ幼虫とハモグリバエ幼虫の食害痕の違い」を参考にする。

病虫害対策チームホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>



トマト葉におけるトマトキバガ幼虫とハモグリバエ幼虫の食害痕の違い

【大分県農林水産研究指導センター農業研究部 原図】

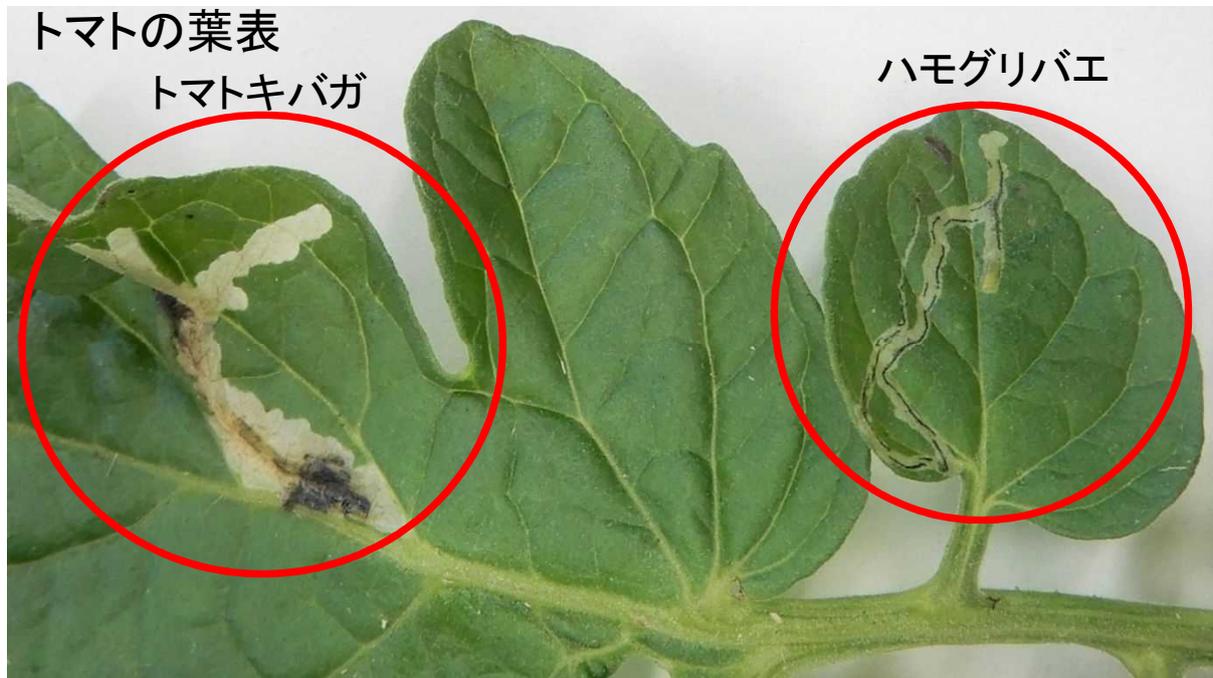


図1 左側：トマトキバガの食害（孔道の中で食害し、巣に戻って糞（下の方の黒い部分）をする）
右側：ハモグリバエの食害（食入直後は食害痕が細く、前進しながら食害し糞が線状となる）

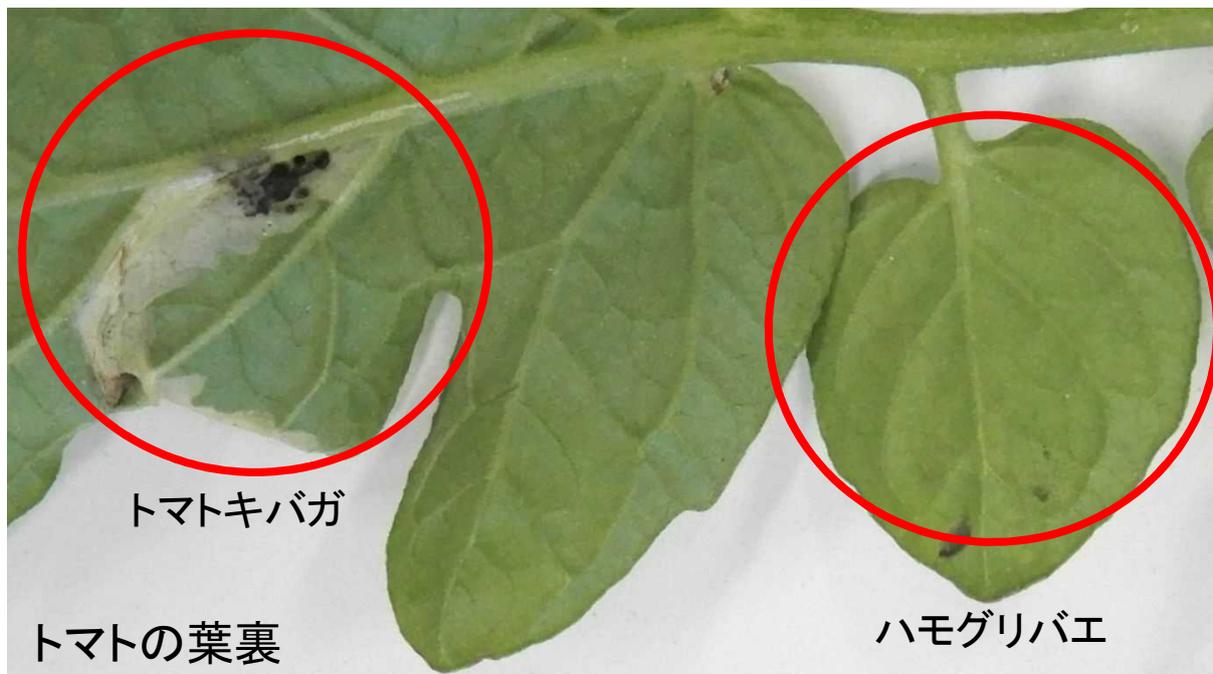


図2 左側：トマトキバガの食害（葉裏も食害痕が透けて確認できる）
右側：ハモグリバエの食害（葉裏は食害痕が確認できない）

表1 トマトキバガ登録農薬（2024年8月1日現在）

作物名（登録有無）		IRAC コード	農薬名 （商品名）	一般名 （成分名）	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	本剤の 使用回数
トマト	ミニトマト							
○	○	5	ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	2回以内
○	○	5	ディアナSC	スピネトラム水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	合計2回以内
○	○	5	ラディアントSC	スピネトラム水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	
○	○	6	アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	5回以内
○	×	6	アグリメック	アバメクチン乳剤	散布	500～1000倍	収穫前日まで	3回以内
○	○	11A	エスマルクDF	BT水和剤	散布	1000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	—
○	○	13	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	3回以内
○	×	22A	トルネードエースDF	インドキサカルブ水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	合計2回以内
○	×	22A	ファイントリムDF	インドキサカルブ水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	
○	○	22B	アクセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	3回以内
○	○	28	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	2回以内
○	○	28	ベリマークSC	シアントラニプロール水和剤	灌注	400株当たり25ml	育苗期後半～定植当日	合計1回以内
○	○	28	プリロツ粒剤	シアントラニプロール粒剤	株元散布	2g/株	育苗期後半～定植時	
○	○	28	プリロツ粒剤オメガ	シアントラニプロール粒剤	株元散布	2g/株	育苗期後半～定植時	
○	○	28	ベネビアOD	シアントラニプロール水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	3回以内
○	○	28	ヨーバルフロアブル	テトラニプロール水和剤	散布	2500倍	収穫前日まで	3回以内
○	○	30	グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	2回以内
○	○	UN	プレオフロアブル	ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	2回以内